

観光社会資本の事例

テーマ	野田の玉川(歌枕をたずねて)		
【施設の状況写真】			
			
普段の野田の玉川			
【施設の利用写真】			
			
平安衣装に身を包んだ女性が琴を奏で まつりに歌枕で詠まれた思いを演出		行燈をせせらぎ沿いに並べた 「行燈まつり」	
【観光資源としての利用状況】			
新古今和歌集や山家集に詠まれ、日本六玉川の1つに数えられる野田の玉川は、雨水排水路として整備するにあたり、「いにしえの多賀城」に思いをはせる橋や灯籠型の照明灯を採用したほか、景観に配慮して護岸とせせらぎに自然石を用いています。			
今では、観光で訪れる人々はもちろん、「行燈まつり」の会場として市民の憩いと交流の場にもなっています。			

テーマ	野田の玉川(歌枕をたずねて)
【社会資本の基礎データ】 ○名称 多賀城市 野田の玉川 ○所在地 宮城県 多賀城市 留ヶ谷 ○事業名 浸水対策事業 水緑景観モデル事業 ○事業主体 多賀城市 ○事業期間 平成元年度～平成3年度	
【社会資本の役割・効果】 ○浸水防止効果 多賀城市では、昭和61年等の大雨や洪水により、たびたび浸水に見舞われてきたが、雨水幹線排水路(野田の玉川)の整備により、その後の大雨や洪水からの浸水を防いでいます。 ○観光資源としての効果 灯籠型の照明灯を採用したり、景観に配慮して護岸とせせらぎに自然石を用いることによって、観光を目的として人々が訪れるようになりました。また、「行燈まつり」の会場となることで、市民の交流の場となっています。	
【位置図】 	
【関連ホームページ】 多賀城市観光協会 http://www3.ocn.ne.jp/~tagakan/ 多賀城市 http://www.city.tagajo.miyagi.jp	

